

ものづくりを通じたひとづくり・夢づくり 未来へ発進!!

みとよロボットフェスタ開催

8月25日、マリノウエーブで「第1回みとよロボットフェスタ」が開催されました。このイベントは、詫間電波工業高等専門学校との連携事業により企画されたもので、「ものづくり」をテーマとして、教材ロボット（形や動作を自由に組み立てられるもの）を使い、得点を競い合うロボットコンテストや、最先端技術で作られた人型コミュニケーションロボット「ワカマル」とのふれあいコーナー、三豊市少年少女発明クラブの作品展などさまざまなイベントが行われ、会場は未来を担う多くの子どもたちでにぎわいました。

三豊市は、発明や発見、ものづくりに対する意識を喚起し、理科学的思考によるひとづくり、まちづくりを推進して、夢がふれる特徴ある地域づくりを行うため、今年3月に「みとよ未来技術基金」を設置しました。そして、この基金事業の一環としてロボットを通じたものづくり事業を計画し、今回のロボットコンテスト実施となりました。

思うように動かないロボットや、予想以上の動きをしながら高得点を重ねていくロボットなど、参加した子どもたちは、短期間でしたがチームでロボットづくりを行いながら「ものづくり」の楽しさを体感しました。

みとよロボットコンテスト奮戦記

ロボコン ダイジェスト



動き方をプログラミングした自動ロボットを使い、倒したペットボトルの得点を競い合う第1回みとよロボットコンテスト。市内を中心に8チームが出場し、初の栄冠を目指し熱い戦いが始まった!



午前10時、レフリーより予選ラウンドスタートが宣告されるものの、各チームロボット調整のためか、相手チームをけん制してか、なかなかエントリーしないまま練習のみで10分が経過。

そのよう
な中、つい
に豊中プロ
ッコリーズ
が初エント
リース、会
場の注目を
一身に集め
る。スター



プログラミングが勝敗の決め手となる「オー

トのホイッ
スルが鳴
り、自動
ロボット
が動き出
し、ペッ
トボト
ルをな
ぎ倒す。
会場
から

どよめきが起こる。今大会のファーストエントリーの結果は31点。その後、つぎつぎと各チームがエントリーを始め、1回目のチャレンジが終了。電波組が54点を叩きだし、頭ひとつ抜き出る。逆に、豊中グループは9点と大きく出遅れた。しかし、各チームとも1回目は様子見とばかりに落ち着いた



大人も子どももロボットの動きに見入るばかり

様子。2回目への修正にすぐに取りかかりはじめた。ロボットのプログラムが勝敗を分けるため、一戦ごとに各チームは調整を行う。



熱い実況の三崎教授「勝敗だけでなく、ロボットをチーム全員で製作していく過程が大切だ」

2回目のチャレンジ。観客から拍手が沸き起こった。やはり電波組である。10点の赤ボトルをつぎつぎと倒し、70点を獲得。つづいてクリアーが65点と追走した。

3回目も終了し、暫定順位も決定。そして、一発逆転のアタックチャンス。下位4チームがまず名乗りを上げ、暫定6位の豊中グループが51点、暫定5位のアップルが59点を獲得し、50点で暫定3位の豊中プロックシリーズ、豊中権兵衛ズとの順位が入れ替わった。すかさず両チームもエ



退。アップルは見事滑り込みで決勝進出。豊中グループスは結果5位となり、三豊クラブ、友達組と共に予選敗退。会場は歓声と落胆の声が入り混じる。

自動ロボットに加え、相手のポイントが無効にできる手動ロボットも参戦する準決勝。

第1試合は、優勝候補筆頭の電波組vs「ラッキーガールチーム」アツプル。波乱が起きた。アップルはアタックチャンスからほとんど修正をかけず、準決勝に臨んだのに対し、電波組は予選ラウンド2回目から3回目にかけて減点したため、プログラミングを大幅に修正したの

だろう。手動ロボットも及ばず、34対57でアップルが決勝進出を決めた。

準決勝第2試合は、勢いのある豊中プロックシリーズvs安定した強さをみせるクリアー。28対69で地

力を見せつけたクリアーが見事勝利を収めた。

獄に分けられた。豊中プロックシリーズ

ズが自己記録更新の60点で大逆転の決勝進出。豊中権兵衛ズはまさかの25点で予選敗

いよいよ決勝戦。アップルvsクリアー。スタートの

カウントダウンが始まり、会場にこの日一番の緊張が走る。スタート!!両チームの自動ロボットがペットボトルを倒し始め、好試合の



詫間電波高専の学生と子どもたちとの交流は、三豊市の大きなうねりとなるに違いない

予感を思わせたその時、アップルのマシンがまさかの横転。こうなると元の体勢には戻れない。時間だけが過ぎていく。それに対し、クリアーは順調に得点を稼いでいく。1分が経過し、手動ロボットスタート。アップルの手動ロボット操縦者は必死になって、クリアーエリアの倒れたペットボトルをキャンセルゾーンに入れようとしますが、自動ロボットが動かないのでは、どうしようもなかった。試合終了のホイッスルが鳴り響く。8対54でクリアーの勝利。

第1回みとよロボットコンテスト初の栄冠は、クリアーの頭上に輝いた。

優勝のクリアー「ペットボトルを倒すときのハラハラ感がたまらない」



優勝のクリアー「ペットボトルを倒すときのハラハラ感がたまらない」

栄冠は、クリアーの頭上に輝いた。

未来の子どもたちへ

「こんなに興奮するとは思わなかった。来年も絶対にみとよロボットをやりたい!」と詫間電波高専の学生は口をそろえ、参加した子どもたちの保護者からは、「ご飯も食べないで長時間こんなに集中している子どもをはじめて見た」との感想がありました。

三豊市は、ロボットづくりなどを通じて子どもたちの夢や、「ものづくり」に対する関心を大切にしながらまちづくりを行っていきたくと考えています。そのため、詫間電波高専や青少年女性発明クラブとの連携を図り、来年以降も継続して「みとよロボットフェスタ」を開催していく予定です。ゆくゆくは、コンテスト出場者を全国から募り、夏休みの恒例行事として定着させていきたいと考えています。

お知らせ

ロボット交流会inみの観光館

日時 11月11日(日)

午前10時~午後3時

内容

ロボコン交流、簡単ロボット教室、次世代型ブロック「デルプロ」体験教室、高専ロボコン2006優勝ロボット・Ark(アーク)操作体験など

問い合わせ

企画課 73・3010